***会話記録作成のポイント***

・録音するわけではないので、正確性は問わない。自分の記憶を頼りに作成する。

・実際の事例のすべてを会話記録に起こし出す必要はない。自分にとって気になったり、印象に残った場面だけを抜き出す。

・方言を無理に標準語に直す必要は無いが、適宜補足説明をする

*・日付や場所は次ページの（例）のようにして隠す。個人名も書かない。*

*・（　）を使って、相手の様子、状況説明などをできるだけ多く加える。*

***・［　］を使って、自分の気持ち****をできるだけ多く加える。*

***※提出物にはマーカーや網掛けは不要です。***

***※ゴシック体を用いなくても構いません。***

・Ｍ５、Ｃ１４のような記号は、会話記録を分析するために使用するので、対話相手の番号とずれても構わない。

・①所感（自分自身の対応を振り返る）は、素直に感想を述べる。

・②このケースに見られる、宗教的／スピリチュアルな文脈（客観的に）は、会話記録を再読して客観的に分析する。

・③このケースで気付かされた、自分の信仰・価値観では、なるべく、教学・神学・宗学的な用語を使わないようにする。

・Ａ４用紙2枚以内にまとめる。文書のレイアウト、余白、文字数・行数、フォントなどで工夫する。

・以下の会話記録（例）は、架空の事例です。

＜会話記録（例）＞

Ｍさん（60代、女性）（←会話の相手）

Ｃ：東北太郎　　　　（←応募者ご自身）

201X年10月Y日 13:15〜13:40 (25分)　@仮設住宅の集会所（宮城県内）

　Ｍさんは、自宅で津波に遭い、２階の天井近くまで浸水。同居していた義理の父は寝たきりで動けず、義理の母とともに水に呑まれて自宅で亡くなる。Ｍさんの夫は仕事に出かけており、車ごと津波で流され、５ヶ月ほど行方不明だったが、車の中で見つかった。長女夫婦は無事だったが、建てたばかりの家が浸水し、長女は帰りたくないという、仕事場に近い隣町のみなし仮設にいる。長男夫婦は皆無事。

Ｍ１：お父さん（＝夫）がなかなかみつからんくて、、、生きててほしいと思ったり、もう諦めようと思ったり、、、じいちゃんとばあちゃん（＝義理の両親）は家で見つかったからいいけど、、、津波が来たときは、一緒に屋根に上がろうと言ったけど、「（津波は）２階まで来ねぇ」って部屋にいて、、、私と隣の奥さんは屋根に上って、そしたら津波が来て。（淡々と話される）

Ｃ１：（ただうなづくだけ）［重苦しい感じ］。

Ｍ２：浪が引いたら、息子がきてくれて、（ぬかるんで）ズブズブだったけど、それまではとにかく必死で、何考えていたか憶えてない。息子が来たら、ほっとして、涙が出た。（少し、しみじみした感じ）

Ｍ３：お父さんどうしたか、心配で心配で、、、（何か感情が動いているような感じ）

Ｍ４：（遺体）安置所も何度もいったけど見つからね。８月になって警察から連絡あって。服と、腕時計で分かった。見つかってよかったけど、あぁ、生きてなかった。生きててほしかったけど、仕方ない（ためいき）。（寂しげな様子）

Ｃ２：（何も言えない）［見つかったのはよかったけど、、、］

Ｍ５：子どもたちがいるから、なんとか支えられて、有り難い。葬式も、全部息子がやってくれて、私はもう、どうしていいか、何も考えらんね。でも葬式あげられたから、成仏できる。（見つかったから、まだましだ、という意味か？）

Ｃ３：そうですね。成仏できた。［本気で言ったのかどうか、自分でもあやしい。とりあえず、相手の言葉を繰り返しただけかもしれない］

Ｍ６：そだね。成仏したんだ。（自分に言い聞かせているような感じ）

Ｍ７：でもね、（今年の）４月に夢にでてきたの（ちょっと嬉しそう）。

Ｃ４：えっ、夢にでてきた。［ちょっと驚く］

Ｍ８：何も言わねんだけど、いつものしかめっ面でもないし、何で出てきたんだか。

Ｃ５：心配してるんじゃないですか？

Ｍ９：成仏してないの？

Ｃ６：いやいや、成仏したから、お母さん（＝Ｍさん）のこと心配して、見守ってるんじゃないですか。［自信をもって伝えてみた］

Ｍ１０：そかね。見守ってくれるんかね？

Ｃ７：見守ってますよ。［Ｃ６より強めに］

Ｍ１１：（ちょっと表情が和らいだ）だといいね。

Ｍ１２：でも、私はいいから、娘のことが心配でね。そっちを守ってほしいの。

Ｃ８：どういうことですか？［内容が分からない］

Ｍ１３：娘夫婦が地震の２年前に家建てたの。なのに水に浸かっちゃって。

Ｃ９：かわいそうに。［つらいなぁ］

（この後、娘夫婦の話が続く。以下省略）

①所感（自分自身の対応を振り返る）

　はじめはＭさんの話に圧倒されて、何も言えなかった。話に飲み込まれたような感じだった。Ｃ３あたりから、自分を取り戻した。それはＣ３の自分の言葉が、中途半端な感じがして、自分が動揺していることに気がついたからだと思う。その反省をふまえて、Ｃ６、Ｃ７では自信を持って「成仏した」と伝えることができた。

　Ｍさんの義理の両親に対する思いは聞けなかった。罪悪感があるのかもしれないが、話したくないのかもしれないし、あえて尋ねなかった。

②このケースに見られる、宗教的／スピリチュアルな文脈（客観的に）

・Ｍさんの夫が成仏したかどうかということ。（Ｍ５〜Ｍ１１）

・成仏したら、生きている人を見守ることができる。（Ｃ６〜Ｍ１２）

・Ｍさんには、夫が見つからず、生きていてほしいという思いと、もう諦めるしかないか、という、相反する思いがあった。遺体が見つかったときも、見つかってよかったという思いと、死を確認してしまった（確認したくなかった）という矛盾した思いが混在していた。（Ｍ１、Ｍ４）

・子どもたちに支えられているという思い。感謝。（Ｍ２、Ｍ５）

③このケースで気付かされた、自分の信仰・価値観

・Ｍ５で「葬式あげられたから、成仏できる」と言われたとき、自分が葬儀をしたわけではないので、はっきりと答えられない、と思っていたような感じがする。他の宗教者（この場合は、葬儀を執行した方）を信頼していない自分がいたことが分かる。

・Ｍさんに限らず、遺族にとって「成仏したかどうか」は大切な問題で、本当のことは分からないとしても、宗教者としては「成仏しました」と言ってあげるべきなのだと思う。

・Ｃ６の「成仏したから、見守ってる」という言葉には自信があった。自分の信仰においてこれは強い思いである。

・この思いをＭさんに伝えて、Ｍさんの表情が和らいだ時は嬉しかった。役に立てたことが嬉しかった、ということは、私には「役に立ちたい」という思いがあるということである。傾聴活動を続けるには「役に立ちたい」という思いは必要だと思うが、これを追い求めて、押し売りにならないように気を引き締めたい。